

みどりのかせ

学校だより 令和5年5月1日号
草津市立笠縫小学校
Tel(077)562-0352
Fax(077)566-1195

こうくん じいく まな ちから わきょう なか ころ さんけん はげ たいど
校訓：自育(すすんで学ぶ力)・和協(仲よくつながる心)・勤儉(よく励む態度)

学校・保護者・地域で力を合わせ

子どもの自立に向けた成長を！

新年度が始まって3週間が過ぎ、学校や学級としての動きも落ち着いたものとなってきました。教室を回っていると、初めは、休み時間に昨年度までの慣れ親しんだ友だちと廊下で過ごしている子どもたちが多かったのですが、最近、新しい学級の仲間と過ごす姿が増えてきています。また、新しい仲間との生き生きした学習の様子が見られることも嬉しく思います。1年生の子どもたちも、学校での生活に慣れてきた様子です。子どもたちが新しい場で自分の居場所をつくっていく姿に、子どもたちなりの順応力の高さを感じています。

さて、入学式の式辞で、「小学校は子どもの自立に向けて、自律心と共生する力を育むことに力点を置いて指導していきます。」と話しました。

子育て四訓

- ①乳児はしっかり肌を離すな
- ②幼児は肌を離せ、手を離すな
- ③少年は手を離せ、目を離すな
- ④青年は目を離せ、心を離すな

子育ての言葉の中には、「子育て四訓」という言葉があります。小学校は、子育ての中でも非常に長い時期を過ごす場所です。その中で特に大切になってくるのは「離さないこと＝かけること」の成長に応じた切り替えと、「手離すこと」の大切さだと感じています。

1年生のように学校生活の基礎を築くまでは、まだまだ丁寧に「手をかける」ことも大切です。ただしすべてを親の手でするのではなく、「手をかける＝一緒に考えて

あげる、考え方を教えてあげる」ことで、自分で考えてできることを増やしていくことができます。できることが増え、手が離れば、今度はしっかりと子どもたちに「目をかける」ことが大切です。小学校は友だちとの付き合いが増え、社会性が広がる時期です。この時期に手を離すことで活動範囲を広げていくことができます。ただし、放っておくのではなく、子どもたちの様子を遠くで見守り、成長を見届け、時には助言や手助けも必要です。そして、どんなに手が離れてきても「心をかける」ことは子どもたちの成長にとって欠かせません。「いつもあなたのことを応援しているよ。」など、大切にしてほしいことを伝えていくことが子どもの安心とやる気につながります。成長に応じて、手・目・心のかけ方を切り替えていくことで、子どもたちの自立に向けた自律心を育てていきましょう。

そして、子育て四訓の中には、「親が手離すこと」の大切さも含まれています。手が離れていく中で、子どもたちに失敗はつきものです。しかし「転ばぬ先の杖」で、子どもが自ら解決しなければいけない問題にも手や口を出し過ぎてしまうと、子どもが自分自身で解決する力も身につけません。特に学校生活では、「行き違い」や「いさかい」は必ずと言っていいほど起こります。しかし、そうしたちょっとしたトラブルを乗り越えていくことで「共生する力」は養われていきます。失敗を恐れて何もさせないよりも、いろんなことを経験し、失敗を通して学び、成長できるよう、子どもの行いを温かく客観的な目で見守る「大人の子離れ」も意識する必要があるのではないのでしょうか。学校・保護者・地域で力を合わせ。子どもの自立に向けた成長を見守っていきましょう。

